

## ～どれくらい大きくなったかな？～保健室より 担当；蓮見 有里



4月から子どもたちの発育測定や検診がたくさんありました。これまでの記録をもとに、子どもたちは、「どれくらい大きくなったかな？」と自分の成長に関心を高め、望んでいました。毎年内科検診をお願いしております学校医（第30代PTA会長）の川口浩人先生に学校だよりの執筆をお願いしました。

その子供は両腕が無かった。なのに何度も転びながらも全力で走っていた。

10年前のセヤリンピック（運動会）、未就学児の徒競走プログラムに参加していた日向楓くん。腕がないからバランスが取れない。転んだ時に体を守るために手をつくこともできない。それでも笑顔で必死に走る走る。

翌年、新1年生として入学してきた。学校医としてはとても心配だった。怪我はもちろんだが、イジメにあわないか、みんなと同じようにできないことが本人の心の成長にどんな影響を及ぼすか、何かあったときに私は学校医として適切な助言ができるのか。

しかし、それは無用な心配だった。ご両親や教職員の方々においては私の知らないところで、様々な苦悩や葛藤もあったことだろう。しかし、学校医として楓君に関する相談を受けることもなく6年間が過ぎ、無事に卒業していった。

先日、久しぶりに楓君に会った。15歳になった彼はなんとパラリンピック水泳の代表候補になっていた。そして複数の種目で日本記録も保持しているという。

そして、この原稿を書いている5月下旬、楓君の代表内定のニュースが飛び込んできた。オリパラ開催の是非が問われている中ではあるが、地域の皆様、瀬谷小学校関係者の皆様からの温かな声援をお願いしたい。

学校医（第30代PTA会長）川口浩人

## ～YICA教育について～ 担当；宮藤 菜純



瀬谷小学校では、1～4年生の外国語活動（1・2年で年間15時間、3・4年で年間30時間）、5・6年の外国語（65時間）と1～6年生の国際理解教室（5時間）を中心にYICA教育を進めています。

YICA教育の目標は次のようになっています。

- 情報や考えなどを受け止めたり、発信したり、伝え合ったりするために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて活用できる外国語の知識や技能を育みます。
- 知識や経験を活用しながら主体的に学ぶ中で協働する喜びを感じられるようにします。
- 多様性を尊重しながら新たな価値を創造しようとするチャレンジ精神をもつ子を育てます。

さて、今年のYICA教育を支えてくれるAET（Assistant English Teacher）とIUI（International Understand Instructor）を紹介します。

AETの先生は、主に外国語活動と外国語の学習のサポートをしてくれます。

今年度のAETの先生は、フィリピン出身のエルメン アダンザ先生です。様々な英語の発音を優しく教えてください。また、IUIの先生は、ウクライナ出身のリセンコ・ナタリーア先生です。ウクライナの食べ物や行事などについて教えてください。

保護者の皆様になかなかYICAの学習は参観していただく機会がありませんが、どんなことを学んでいるのかお子さんとぜひ話題にしてみてください。

## ～職員研修～守ろう命！防ごう事故！

担当；岡 脩人

夏を間近に迎え、水泳学習が始まります。昨年度と今年度においては、感染拡大防止の観点から、これまでのような学習で実施することができません。今年度につきましては、6年生の着衣泳、2年生の水泳学習を実施し、それ以外の学年は、水害事故防止教室を実施する予定です。

また、本校では、水泳学習における安全管理・安全指導等の充実・徹底を図るために、全職員が適切な処置を行えるよう、心肺蘇生講習会を毎年行っています。傷病者の発見から、声かけ、安全確保、意識の確認、心肺蘇生への一連の流れを実際に行うとともに、AED（自動体外式除細動器）の扱い方についてデモ機を使って研修しました。

あつてはならない事故に対して、どのように対応していくか確認し合いました。



令和3年度  
よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト  
瀬谷区審査会



## ～よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト～担当；杉浦 沙綾香

6月23日（水）瀬谷公会堂にて「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が行われました。本校からは、6年3組の鈴木莉奈さんが出場しました。当日まで練習を重ね、学校代表として堂々とスピーチをすることができました。スピーチの内容をご紹介します。

「1グラムからはじめよう」

鈴木 莉奈

「あ、もったいない。」学校で給食を食べた後、残った給食を見るたびにそう思います。でも、その量は、私一人で食べきれない量ではないのです。だから、みなさんで少しでも考えられたら良いのではないかと思います、このことをスピーチにすることにしました。

私は、小さいころに、食べ放題のお店に行ったときに、食べ物をついぱい頼んでいました。今、思い出すと、それは必要以上の量でした。結局、全部食べられなくて多くの量を残してしまいました。みなさんの中にも、そんな経験をしたことがある人もいないのでしょうか。

そんな中で、「食品ロス」のことを知りました。みんなが残さないことを心がければ、世界中の人がみんな満腹になることも知りました。

それを知ったとき、小さいころの食べ放題のお店での行為を思い出しました。すごく反省しました。くやんだけれど、残してしまったごはんは、捨てられてしまい、もう返ってはきません。

食べ放題ではなくても、一日にちょっとずつ残していたら、一年間で残る量は、すごく大きな量になるのではないかと思います。

私にも、好きな食べ物もあれば、苦手な食べ物もあります。きっとみなさんもそうだと思います。ただ、「それをすごく無理して食べましょう」という提案ではありません。少しでも多くの人が、「食品ロス」に目を向けて自分のできることを少しずつ実践することができれば、きっとそれだけで、かなり多くの量の「食品ロス」がなくなるのではないかと考えたのです。「食べる」こと以外で「食品ロス」を減らす方法を本で調べてみました。

例えば、野菜の葉や皮は捨てずに、料理の材料にするなどのこん立てを考えることです。また、見通しを持たずに買い物をしてしまうと、ついつい賞味期限や消費期限を過ぎてしまうことがあり、捨てなければいけなくなってしまいます。計画的に買い物をするので、それは防げるかもしれません。

私が考えることは、少しでも多くの人が実践すれば、身の回りの小さなことでも、きっと大きな結果につながるのではないかと思います。まず、私は考えます。自分のできることから。私は、1gでも食品ロスを減らせるようにします。みなさんも少しでもいいので考えてみてください。きっとできることがあります。私もこれからも考えて、実践できることを増やしたいと思います。食べられることを「当たり前」と思うのではなく、「ありがとう」と感じながら。

その後6年3組では、給食の食べ残しがゼロになったそうです。